

行政と連携した天然記念物に関する調査・啓蒙活動

神戸大学保全生態学研究会

代表：修士2年 高橋あかり

指導教員：石井弘明 教授

活動のねらい

- 気候変動にともなう集中豪雨や台風の増加によって、土砂崩れや倒木によるインフラ（建物や歩道、電線など）への被害が頻発
- 社叢や保護木などの天然記念物は、常に状態が変化するため枝や落葉の越境など日常的な苦情の対象にもなる。これらの課題を解決するためには、社会活動と天然記念物保全を両立が必要

天然記念物が周囲のインフラに与える影響を調査し、両者の干渉を事前に把握して対策することで、人と緑が共存できる持続可能な社会を地域に根差した学生目線で実現

活動内容

- 本活動では、神戸市や西宮市の天然記念物（社叢や保護木など）が文化財建造物や民家などの隣接する人間環境に与える影響についての調査から得られた情報をもとに、落葉・落枝、倒木への対策を実施した。神戸市の太山寺や無動寺では森林を活用していくため、タケ・ササの拡大やナラ枯れへの対策などの森林整備を行った



ササ刈り前



ササ刈り後

- 森林との共存を市民とともに考えるために、歴史や森の成り立ちなどを学ぶ観察会やシンポジウムを開催した



太山寺での森林観察会



太山寺の
ササ刈り後

作業後の集合写真



今後の展望

- 引き続き各調査地について詳しい学術調査を行い、都市緑地の保全・管理手法の提案に努めていく

連携した団体：神戸市公園緑化協会、神戸市地域協働局、無動寺、神戸市建設局、無動寺、西宮市産業文化局、太山寺